

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

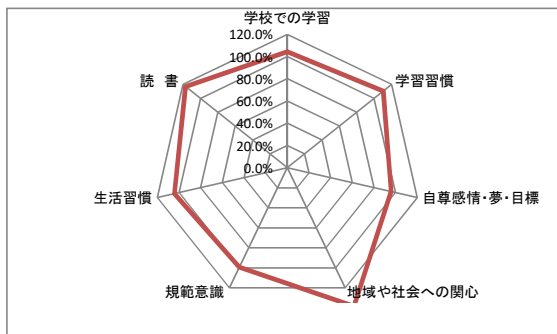
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域に関しては、全国平均正答率を上回っている。また、「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に関しては、全国平均と同等である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	上回っている
	努力が必要な問題	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	

数学	全体的な傾向や特徴など	すべての領域に関して、全国平均正答率を上回っている。特に、「資料の活用」の領域において、大きく上回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	上回っている
	努力が必要な問題	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数をその和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学習活動では、自分で計画的に勉強を進めるなど、授業以外での勉強時間は長い傾向にある。 ・読書への関心が高い生徒が多く、学校の授業時間以外での読書の時間が長い。 ・生活習慣では基本的な習慣の定着ができている割合が高く、また自尊感情なども高い結果となったが、将来の夢や目標については、まだはっきりとしたものをもっていない生徒が多い。 ・地域や社会への関心が非常に高く、地域行事への参加が積極的である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科の授業の中で、生徒が自ら考え、表現する活動の時間を確保し、考えを伝え合う場面や他者の考えを参考にして自分の考えを深める場面のさらなる充実が必要である。また、文章をしっかりと読み、内容を読み取らせ、理解したことを表現させる活動もさらに充実させていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭での学習習慣が多くの生徒についてきている。それを継続させるために、家庭学習用「田原ノート」の有効的な活用や「週末課題」の継続的な出題をしていく。また、保護者には保護者懇談会等を通して、家庭での声掛け等の協力をお願いする。